

長谷工コーポレーション

カーボンニュートラルに向けた建設現場の新たな取り組み 電動定置式コンクリートポンプを初採用し、CO₂ 排出量を削減

㈱長谷工コーポレーション（本社：東京都港区、代表取締役社長：池上 一夫、以下「長谷工」という）は、電動定置式コンクリートポンプを「(仮称)東京都港区港南三丁目7番プロジェクト新築工事」建設現場(以下「本現場」という)において初採用いたしました。

電動定置式コンクリートポンプの採用により、以下の効果が期待されます。

- ① 電動式の為、軽油を燃料とせずコンクリート打設時のCO₂ 排出量を削減
- ② 定置式の為、コンクリートポンプ車の日々の移動に伴うCO₂ 排出量を削減

さらに、長谷工では全建設現場で再生可能エネルギー電力(※1)を使用しているため、コンクリート打設時のCO₂ 排出量は『ゼロ』となることから、コンクリートポンプ車の移動に伴うCO₂ 排出量の削減分として0.02t-CO₂/日の排出量削減の効果が見込めます。本現場におきましては、電動定置式コンクリートポンプの採用により1.6t-CO₂/工期のCO₂ 排出量削減が見込まれます。

また、定置式のコンクリートポンプを採用することによりポンプ車の運転が不要となるため、作業員の就労時間の短縮にも寄与します。

今回の取り組みは、長谷工グループが2050年カーボンニュートラルを目指した取り組みとして制定した長谷工グループ気候変動対応方針「HASEKO ZERO - Emission」(※2)に則った対応となります。

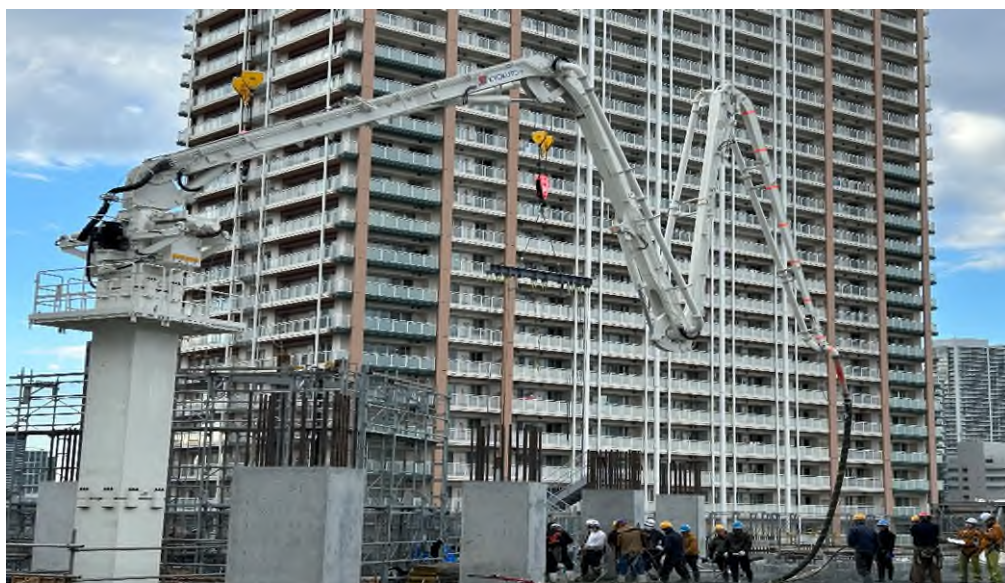
(※1) https://www.haseko.co.jp/hc/information/upload_files/20230619_1.pdf

(※2) <https://www.haseko.co.jp/hc/csr/environment/climate.html>



【電動定置式コンクリートポンプによる稼働の様子】





【ディストリビューター (※3) によるコンクリート打設の様子】

(※3) ポンプ車からコンクリートが圧送される縦配管と直結し、折り畳み式のブームを打設場所まで伸ばしてコンクリートを打設するもの。

在来工法の現場では、スラブ上に横引き配管を敷設し打設場所までコンクリートを圧送するため、ディストリビューターを使用することで横引き配管の敷設が不要になりコンクリート打設の効率化が図れる。

気候変動が世界的な課題となる中、長谷工グループは「持続可能な開発目標 (SDGs)」や「パリ協定」などの国際的な枠組みに基づき、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めています。企業理念である「都市と人間の最適な生活環境を創造し、社会に貢献する。」を実現するため、事業を通じた課題解決と企業価値の向上を目指してまいります。

■物件概要

所在地	東京都港区港南 3 丁目 7-2 (地番)
構造・規模	鉄筋コンクリート造・地上 34 階建
工期	2023/6/30～2026/9/30(予定)
総戸数	815 戸 (他に店舗 1 区画)
事業主	日鉄興和不動産株式会社 関電不動産開発株式会社 九州旅客鉄道株式会社 京浜急行電鉄株式会社 中央日本土地建物株式会社
設計	浅井謙建築研究所株式会社・株式会社長谷工コーポレーション
施工	株式会社長谷工コーポレーション